

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070800293		
法人名	社会福祉法人 小諸青葉福祉会		
事業所名	グループホーム やまびこの家		
所在地	長野県小諸市大字柏木1326-1		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果市町村受理日	平成23年5月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070800293&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070800293&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成23年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症状態にある要介護高齢利用者に対し、少人数で馴染みのある環境の中、安全で安心できる共同生活の場を提供すると共に介護やその他の支援によって、明るく楽しい家庭的なくつろぎのある生活空間を提供する。  
 ・一人ひとりが安心できる家庭的な生活を送る。  
 ・家庭、近隣住民、ボランティア等、人が気軽に立ち寄る事が出来る場所とする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合事業所としてのメリットを十分に活かしなら、利用者が「安心、ゆっくり、楽しい生活」を送れるよう支援している。特に隣接するチャイルドハウスの子供たちとの日常的な接触は利用者の心を和ませている。複合事業所内完結型の暮らしになり易いが、隣接する事業所を訪れる外部の方との交流や中学生の職場体験の受け入れなど地域と繋がりがながらの暮らしの形となるよう取り組んでいる。医療面、防災面、研修会等が充実しており、利用者・家族、職員も安心できる環境となっている。法人全体の人事異動となっているので、デメリットもあるが、常に利用者に寄り添い、一人ひとりの関わりを大切にして、利用者が誇りを持って「その人らしく」生きて頂けるよう取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について職場内に掲示をし、各自確認し理念を共有し実践につなげている。	法人の理念の下、事業所独自の理念を掲げ、「一人ひとりの生きる力を発揮できるよう」取り組んでいる。全員参加による法人全体の年度初めの会で事業所ごとに理念や事業方針を話し、共有化を図ると共に、取り組みへの決意を新たにしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人内の行事等に参加し、その場での地域の方との交流はあるが、地域行事参加は難しい。	日常的な地域とのつきあいは立地条件的に困難が多いが、隣接する事業所での行事等に参加して地域の方との交流をしている。中学生の職場体験への協力、隣接するチャイルドハウスの子供たちとの交流、地域の水路清掃への参加など地域と親しくつきあうよう努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会において、認知症事業所内での取り組みを知っていただくように資料を作ったり、普段の生活や行事等写真で説明した。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において職員が参加し、意見交換を行っている。また、緊急時の協力体制について確認を行い、避難訓練時に参加をしていただいた。	行政、地域、消防団、利用者の参加の下、22年度は諸事情あり1回だけの開催となった。避難訓練への参加、事業所内の見学、外部評価の報告、地域の実情把握など透明性のある会議となっている。職員も参加しており、会議での話題等が共有化されており、サービスの向上に繋がっている。	年6回の開催に向けて努力されることを期待したい。委員構成に家族を加えて、会議内容は会議に欠席した家族、さらに面会者に公表していくことを望みます。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回のサービス調整会議への参加をすることにより、普段より情報のやり取りを行い、小諸市との協力関係を築いている。	月1回のサービス調整会議に参加し、行政担当職員を中心に協力関係を築いている。地域ニーズの把握もでき、事業所の空き情報も伝えるなど、相互にとって有意義な関係作りが出来ている。	

外部評価結果(グループホーム やまびこの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで昼間は常時開けてあり、自由に入出入り出来るようになっている。その他の身体拘束についても職員研修の中で勉強する等、行わないケアに努めている。	拘束しないケアの5つの方針があり、さらに法人全体の研修会を通じて、抑圧感のない暮らしを支援していくという基本姿勢を持っている。玄関の施錠はなく、チャイムや見守りを行いながら対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修において学ぶ場を提供し、虐待防止について理解し防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議や職員研修において書面や資料等を通して理解に努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	随時書面及び口頭で行い不安や疑問点を解消し、理解や納得をして頂けるように努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望は常に受け入れ改善に取り組んでいる。また運営推進会議やサービス調整会議などで外部者へそれらを表している。	年1回の家族会(家族同士の話し合いも行う)、年1回の法人の広報誌の発行、面会時にゆっくり話すなど家族との信頼関係を土台にして思いや意向を聞くよう取り組んでいる。	さらなる信頼関係構築のため、定期的に日々の暮らしぶり、望んでいること、健康状態などを報告されることを期待したい。また、テーマを決めて家族の意見や要望を伺うなどの取り組みを期待します。継続的に発行できる「たより」を模索中であることを伺い、早期に実現出来ることを望みます。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りの中や、職員会議において常に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	年1回の人事考課を実施し、年2回の目標実績確認表による評価があり、職員の思いや意見を聞く機会を組織的に設けている。職員会やミーティングの機会にも意見等は発言でき、育児支援も行われて職員の意欲の喚起になっている。	

外部評価結果(グループホーム やまびこの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p><b>就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課、目標実績確認表等により個別面接を定期的に行い、個々の努力や実績、勤務状況の把握に努めている。</p>		
13		<p><b>職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職場内研修や佐久圏域グループホーム連絡会での研修、相互評価等に参加している。</p>		
14		<p><b>同業者との交流を通じた向上</b>                      代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>サービス調整会議や佐久圏域グループホーム連絡会を通し、交流や互いに勉強しサービスの質を向上できるように努めている。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p><b>初期に築く本人との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前に管理者及び計画作成担当者が本人と会い現状把握をすると共に、今後の生活について話す機会を設け、信頼ある関係作りに努めている。</p>		
16		<p><b>初期に築く家族等との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>申し込みの際、契約する際などに管理者及び計画作成担当者がご家族と会い、家族の意向・要望を聞く機会を設けている。</p>		
17		<p><b>初期対応の見極めと支援</b>                      サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人・家族からの情報だけでなく、ケアマネージャーや利用していた事業所等から書面や口頭等による情報提供を含めた対応に努めている。</p>		

外部評価結果(グループホーム やまびこの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの「生きる力」が発揮できるように一人ひとりに寄り添い、共に生活を送るように努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密に行い、共に本人を支える事が出来るような関係作りに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人たちが面会に来たり、送り物や手紙などでその関係を持続出来るように努めている。ADL状況低下により馴染みの場所への外出が困難な状況である。	知人や友人が訪ねて来たり、贈り物や年賀状が来たりして、馴染みの関係が途切れないよう努めている。重度化の傾向にあり、馴染みの場所などに出掛ける支援に苦慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞く等、利用者同士の思いを把握し間に入ったり、一緒に関わる等利用者同士の関わりや支えあい出来る様に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方々は長期間経過しているため情報収集が困難である。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から話を聞くなどし、その人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	基本情報により利用者の思いや意向を把握している。手芸、ハーモニカ、歌など各人の得意なことも把握し、それらを発揮できる場所づくりをしている。利用者のふと漏らす言葉も記録して今後のケアや介護計画に繋げるよう努めている。	

外部評価結果(グループホーム やまびこの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	専用シートを用意し、家族へ情報記入の依頼をし協力を得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個々の生活リズムを理解し現状把握に努めている。アセスメントシートの活用、定期的な見直しを行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的又は必要の応じて本人・家族への聞き取りや話し合いを行い、課題分析、モニタリング、ケースカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	センター方式を活用した事業所独自の様式により、管理者と計画作成担当者が中心となり、利用者や家族の思いや希望を聞いて介護計画を作成している。設定期間毎の見直しや変化に応じて随時の見直しを行っている。	月に1度は実施状況を把握し、設定期間毎の確実な見直しの実施を期待したい。利用者の担当制があるので、有効活用しながら、職員の観察力や計画の立案力を養い、職員のやりがいや向上心に繋げることを望みます。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・夜勤日誌・ケース記録の記入とその確認により、職員間での情報の共有をしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズを想定し、介護用品・備品などを準備し、又は他部署から備品を借用する等、状況発生時に速やかに対応出来るようにしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長・民生委員へ協力依頼をしている。		

外部評価結果(グループホーム やまびこの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>契約時に主治医、緊急時の病院について話をしそれに添った対応を行っている。</p>	<p>利用者と家族の希望により事業所の協力医療機関がかかりつけ医になっている。医療連携体制があり、週に1度看護師が健康状態のチェックに来ている。内科、精神科、歯科、入院時の病院があり、連携も充分であるので医療面での安心感を得ている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週に1回訪問看護師が来訪し日々の状況を伝えたり相談し、必要に応じ受診をしている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中、家族や病院と連絡を摂り、面会や電話にて、情報交換や早期退院に向けての話し合いを持っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>状態変化について、主治医・看護師等と連携をとり家族へ説明を行っている。必要に応じ主治医・家族・職員とのカンファレンスを行っている。</p>	<p>終末期の指針があり、医療関係の協力を得られるので、状態変化に応じて家族等との話し合いを行い、基本的には事業所で受け入れる体制がある。重度化についても研修会等により、職員の対応は、認識の共有化があり、チームで取り組める体制になっている。これまで2名の看取り経験をしている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署での救命講習を受講したり、職員研修において実践力を身につけている。また緊急時マニュアルを設置している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に昼間・夜間での避難訓練を実施している。また地域の方も参加してもらい協力体制を築いている。</p>	<p>年2回(昼・夜想定)の通報・避難・消火訓練を行っている。自動通報装置、スプリンクラーの設置、地域住民や消防団の協力関係もあり、災害への備えは出来ている。さらに隣接する事業所からの協力・支援体制もあり、特に夜間の災害への不安は少ない。</p>	

外部評価結果(グループホーム やまびこの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を常に念頭に置き一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう丁寧な言葉掛けや対応を実践している。	個人情報の保護やプライバシーに関しての法人全体の学習会があり、法人の理念にも尊厳・人間性・自立心を尊重することも謳われ、利用者への誇りやプライバシーに配慮した支援が行われている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表わしやすいような日々のケア、関係作りに努め、自己決定が出来るような声かけ、働きかけに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の一日の生活リズムを大切にしながら、日々の体調変化・要望・希望等があれば、訴えを優先できるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪、毛染めの対応、状況に合わせた身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある献立作りを利用者の声を聞きながら行っている。また調理や後片付けを職員と一緒にしている。	重度化傾向にあり、調理や下準備は職員と一緒に出来ないが、片付けなどは一緒に行っている。隣接事業所の調理委託業者によるバイキング、子供たちとの食事会・焼き芋会、おはぎやケーキ作りなど食を楽しむ機会が多くなるよう努めている。栄養面のチェックは隣接事業所の栄養士から受けている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分チェックを都度行い、必要に応じて補食や飲みやすい水分の提供を行っている。食事メニューの栄養バランスを法人内の栄養士にチェックしてもらっている。		

外部評価結果(グループホーム やまびこの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕食後に行っている。必要時は昼食後も行う。個々の状況に合わせて見守り、介助を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時対応の他、その日の利用者の状況に合わせて支援を行っている。またオムツ使用者も基本的にトイレを使用している。	リハビリパンツやおむつを使用し、尿取りパットも状況に応じて使用しているが、トイレを使用しての排泄をケアの基本として、声掛けや誘導をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状況に合わせて飲食物を工夫したり、腹部のマッサージや、運動をしている。また医師や看護師と連携をはかり対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介護度重度化につき職員介助が必要なため、曜日を決めている。	1人週2回(月・木)、1回に9名、午後入浴を行っている。重度者には2名の職員で対応している。ゆず湯などの楽しみも取り入れている。	現状の浴槽は広く、深く、段差も大きいので、入浴をゆったり、安心して楽しめるものにするための改修を含め工夫を期待したい。さらに入浴日を固定しないで、利用者の希望にそった入浴が出来るよう検討することを望みます。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に合わせ、寝る場所や時間等柔軟な対応をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合は申し送りをしたり、最新の処方箋を個々にまとめていつでも確認できるようにしている。		

外部評価結果(グループホーム やまびこの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のお手伝いの中で役割を感じてもらったり、季節行事や手作りおやつを提供し季節感を楽しみ、気分転換を図っている。また手芸教室に参加したり、隣接する託児所の子供達と触れ合ったりもしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者と話し合いのもと、外出場所、日程を皆で決め外出している。	重度化傾向のため、遠方への外出が難しく、又、坂にあり、民家が少ないという立地条件のため、日々の散歩に困難を来しているが、チャイルドハウスの子供たちとの交流、併設事業所への行事やクラブ活動への参加、ウッドデッキの活用など敷地内における戸外に出る機会を多くする支援は行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ、家族と相談しながらお金を所持していただいたり、パン屋来訪時に購入したりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者個々の要望により電話をしたり、手紙のやり取りの支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間を利用し、手作り作品や季節の花を飾、生活感・季節感が感じられる雰囲気作りを心がけている。	居間兼食堂からの眺望は良く、隣接するチャイルドハウスの子供たちの姿を目にし声が聞かれ、人々が暮らしている当たり前の風景が展開している。壁は赤・青等の原色であるが、不思議と心を和ませている。絵画や利用者の作品が飾られ、畳の間が段上がりがあり、テレビや炬燵が置かれ、馴染みの空間になっている。季節に応じた催し物も大切にしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂だけでなく、廊下や玄関、玄関先にイスを置き、思い思いに過ごせるようにしている。		

外部評価結果(グループホーム やまびこの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に説明し使い慣れた、馴染みの家具等を搬入して頂いている。また状況に合わせて都度本人・家族と相談しながら工夫を図っている。	居室は括りつけの収納庫以外は全て、利用者と家族で馴染みの物を配置している。ベッド、寝具、写真、机、椅子など各人の思いに応じて自由に持ち込まれている。窓からは民家や遠くには小諸の街並みが眺められ、ゆったりと過ごせる空間になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮し努力している。		